
平成25年度第6回（第10期第9回）小平市廃棄物減量等推進審議会
会 議 次 第

平成26年2月13日（木） 午後2時00分～ 小平市庁舎 庁議室
--

- 1 開会
- 2 事務局報告
- 3 議事
（1）答申について
- 4 答申
- 5 閉会

配付資料

- 資料1 「小平市ごみ処理基本計画の策定について」（答申）
資料2 「小平市一般廃棄物処理基本計画」（案）の変更箇所

会長
環境部長

それでは会議を始めます。まず環境部長からお願いいたします。
本日の第9回審議会が最後となります。2年間真摯に審議会にご参加いただき、数々のご討論いただきまして深く感謝申し上げます。本日は市から諮問をさせていただきまして一般廃棄物処理基本計画について最後の審議をしていただきまして、市長に答申をしていただく運びになっておりますのでよろしくお願い申し上げます。おかげ様で基本計画につきましては今後の9年間の小平市の廃棄物処理行政の方向性を決めるものとして、わかりやすく良いものができたと思っております。今後はご審議いただきました基本計画に沿いまして、より一層ごみ減量に努めていきたいと思っております。今後ともよろしくお願い申し上げます。

会長

本日が最後の会議で答申も行いたいと考えています。本日の会議の進行について、説明をお願いします。

事務局

本日は、次第にございますとおり、このあと事務局報告をさせていただきまして、その後、答申の内容について皆さまに最終確認をしていただきたいと思います。

その後、答申文の準備などもございますので、いったん休憩を挟ませていただき、午後3時ごろ市長を入れまして答申をしていただきます。答申につきましては、会長から市長に答申書を手渡ししていただくこととなります。さらにその後は、市長のスケジュールにもいくらかの余裕がございますので、委員の皆さまと懇談の時間を設けさせていただきまして、時間となりましたら本日の会議を終了させていただければと存じます。以上、よろしくお願い申し上げます。

会長
事務局

それでは事務局報告をお願いします。

前回の1月16日（木）開催以降について、大きく2点のご報告をさせていただきます。

1点目といたしましては、3市共同資源化事業についての報告でございます。

3市共同資源化事業につきましては、昨年、平成25年12月18日（水）に第1回の「(仮称)施設整備地域連絡協議会の準備会」を東大和市桜が丘市民センターで午後7時から開催いたしました。

当日は、参加者から様々なご意見をいただく中、再度、会議を行うことになり、改めて先月、1月27日（月）午後7時から東大和市桜が丘市民センターで、第2回目の準備会を開催いたしました。

2回目の準備会でも、3市共同資源物処理施設の想定地の選定理由や施設の必要性など、協議会設置以外の議論になってしまいましたが、より良い施設整備を行っていくために協議会は必要なことから設置を決めさせていただきました。

そして、昨日、2月12日（水）午後7時から東大和市桜が丘市民センターで、第1回目の(仮称)施設整備地域連絡協議会が開催されました。

当日は、3市市長及び小平・村山・大和衛生組合管理者も出席し協議会の設置についてのあいさつをいただき、地域委員16名の方が参加いたしました。

第1回目の協議会につきましては、開催日まで期間がないことから団体として正式な参加表明が出来ない団体につきましては「仮参加」ということで参加をいただき、事前の確認では6団体の参加、11団体の仮参加の計17団体から出席の連絡をいただいております。

当日は、やはり反対の立場の方から3市共同資源物処理施設の想定地の選定理由や施設の必要性や協議会そのものの必要性など、協議会の対象でない議論になってしまいました。そのため、次回以降の開催日程などのみ決めていただき閉会となりました。

	<p>2点目といたしましては、「陶磁器のリサイクル・使用済み小型家電のリサイクル」についての報告でございます。</p> <p>こちらは、3回目の拠点回収を1月21日の木曜日に清掃事務所において、午後2時から4時までの2時間、実施いたしました。</p> <p>回収量は、陶磁器が約380kg、小型家電が約23kgでした。</p> <p>なお、今年度につきましては、あと1回、3月14日の金曜日に市東部の東部公園にて午後1時30分から3時30分までの2時間、開催を予定しております。</p> <p>もし、不要の陶磁器及び使用済み小型家電、携帯電話、携帯音楽プレーヤー、携帯ゲーム機器、デジタルカメラ、ポータブルビデオカメラ、ポータブルカーナビ、電子手帳、卓上計算機、ACアダプターがおありでしたら、ご利用いただければと考えております。来年度以降につきましても、この陶磁器のリサイクル・使用済み小型家電につきましては、継続してイベント回収及び拠点回収を実施していく予定でおります。事務局からの報告は以上になります。</p>
会長	今の事務局報告に質問がございましたらどうぞ。
委員	小型家電の品目は市のホームページに載っていますか。
事務局	載せています。拠点回収の市報を出したときも載せています。小平市はまだ固定での回収はしていませんので、拠点回収するときに広報しています。
会長	本日の本題に入ります。答申の確認について事務局から説明をお願いします。
事務局	それでは議事に移ります。事務局といたしまして、前回の会議で案としてお示しましたものと同じ内容の答申文と、前回の会議でのご意見などを踏まえまして、修正をいたしました計画案を、事前に配付させていただいております。
	また、本日机上に配付させていただいております、「小平市一般廃棄物処理基本計画（案）の変更箇所」のとおり、資料の事前配付の後にいただいた委員からのご指摘等を踏まえまして、事前にお送りした計画案を変更いたしております。
	本日していただく答申としましては、答申文と、変更後の計画案の2点をセットとしたものとなります。先ほど説明申し上げましたとおり、この後の市長への答申に当たりまして、皆様には最終確認をお願いできればと存じます。以上でございます。
会長	みなさまのご意見をできるだけ取り入れています。ご質問なりご意見なりお願いします。
委員	資料に加えるアンケートの調査票のページの並べ方はこれでいいのでしょうか。
事務局	好みの問題でどちらでも大丈夫です。
会長	案外、理系と文系で違っていて、議論のあるところですが、私はこのままで良いと思います。
副会長	29ページの4番は「環境学習・環境教育の充実のための支援をします」の方が文章はすっきりすると思います。充実のための支援をするのが行政の役割ではないのでしょうか。
会長	ではそこを直していただけますか。他にどうぞ。
委員	138ページの期間に曜日が入っていますが曜日は必要ですか。前ページには入っていません。
事務局	曜日を取ります。
委員	29ページのカエルマークの「REUSE」の文字の色が薄くて、よく見えません。
事務局	もともとの色が黄色なので薄くなります。使用する画像を検討してみます。

会長 今出たところで修正をして最終答申にするということで、結論としてよろしいでしょうか。

会長 事務局長 ***** 異議なし *****

会長 事務局長 これです。これで答申案確定です。ありがとうございました。

会長 事務局長 市長への答申が午後3時頃からということで、少々時間がありますので、会議をいったん休憩しまして午後3時から再開させていただきます。席を離れていただいても結構ですが、再開の時間までにはお集まりください。それでは休憩いたします。

会長 事務局長 ***** 休憩 *****

会長 事務局長 それでは会議を再開いたします。

会長 事務局長 これより、審議会を代表いただきまして、会長と副会長から市長に答申書を手渡しいただきたいと存じます。

会長 事務局長 ***** 答申文読み上げ *****

市長 事務局長 ***** 市長に手交 *****

市長 事務局長 ありがとうございます。市長より皆様にごあいさつを申し上げます。

市長 事務局長 あらためまして、市長の小林正則でございます。

市長 事務局長 本日は、廃棄物減量等推進審議会の第10期としての審議の成果となります、答申をいただきまして、誠にありがとうございます。

市長 事務局長 今回審議をいただきました小平市一般廃棄物処理基本計画は、皆さまにはご案内のとおり、平成34年度までを計画期間として小平市としての今後の廃棄物の減量や処理の方向性などを定めるものでございます。この計画期間内には引き続きいっそうの廃棄物の減量を進めていかなければならないとともに、資源物の処理施設や、小平・村山・大和衛生組合の焼却施設といった日々の廃棄物を処理するためにはならない施設の整備・更新が必要となっており、そうした点でこの計画期間は特に重要な時期であると認識しております。この小平市一般廃棄物処理基本計画につきましては、ご審議をいただきました計画案を尊重させていただいてこれから計画として決定し、来年度以降におきましては答申にもございましたとおり、計画内容の実現に向けて鋭意取り組んでまいり所存でございます。以上でございます。

市長 事務局長 ありがとうございます。ここからは、進行を会長にお返しいたします。

市長 事務局長 以上で答申は終わったわけですが、せっかくの機会ですので皆さまから市長にお話しいただければと思います。

市長 事務局長 どうぞ何なりとごみに限らずお話してください。ごみはある意味、生活全般に関わる問題ですから。

市長 事務局長 私はごみ問題に27歳から関わっていて、実際、回収業を32歳から40歳までやりました。新聞、段ボール、ボロが中心でビンとカンもやりました。ビンと言いますとリターナブルビンというのは必ずリサイクルされますがそれ以外は破碎されてカレットになります。私はできるだけリターナルビンを使うようにしています。一方でそれを配達する側から考えると私は牛乳配達も5年やっていますが牛乳ビンは重たいですね。どちらのサイドで開発するかが問題で、紙パックになると労働の軽減になります。何度も使うとなるとやはりビンがいいですね。

市長 事務局長 過剰包装はいけないと言いますが、一方では流通問題です。遠くでできたもの、例えば外国でできたものを食すとなると過剰な包装になります。身近なところで消費していけば過剰な包装になりませんし、近所の畑の地域でできたものであれば包装はいりません。日本の伝統的な流通形態があったが、なかなかそれができなくな

委員
市長

委員
市長

会長

っています。

この計画は3市共同資源化が大きなポイントになりますが、3市共同資源化は大きな問題で難航しそうに思います。小平・村山・大和衛生組合も応援しないと解決は難しい局面にあると思います。

みなさまご存じのとおり、今、武蔵村山市、東大和市、小平市の3市で集めて燃やして減量化して最終的に日の出町の二ツ塚で処分させていただいています。1市で運営していくのは現実的ではなく、スケールメリットを考慮して、一定規模で効率的なところを求めて、広域的にいくつかの市がお金を出し合って施設を作っています。焼却施設は小平市にあって東大和と武蔵村山のごみを小平で燃やしています。立川市が新しく焼却施設を昭島市との市境に作るのにもめています。立川市は単独市でやっています。小金井市は調布と府中でやっていましたが、小金井市が建設は罷りならんと言ったので建替えができなくなりました。調布や府中から見れば前のところで建替えをしようということでしたが、小金井市が反対してできなくなりました。建替えをしないというごみ問題の理想論を言う方が多くて、議会を動かして、結局は府中と調布は嫌気がさしてしまって、小金井市とはいっしょにやりませんと言って、2市は他の市と一部事務組合を作ってごみ処理をすることになりました。小金井市は結局そこで外されてしまった。小平市は小金井市のごみを有料で一時的に受け入れたこともありますが、ごみ問題には理想論と現実があります。

小平市は中島町で3市のごみを焼却しています。鉄やアルミなどのカン、プラスチック、ペットボトルは、各市が資源化事業をずっとやってきました。小平市は小川東町で行い、東大和も武蔵村山もやっています。この施設を統合して効率的にやろうということで進めています。集めて手選別し、圧縮して梱包して出荷してリサイクルします。一般的に言われる迷惑施設としては極めて抵抗感が少ない施設です。

東大和の人たちは、一つは感情論として迷惑施設を受け入れるのは罷りならんと言いつつ、もう一つはなんで小平や武蔵村山のものを引き受け入れないといけぬのかと言っています。あと一つは、杉並病と言われるようにプラスチックを圧縮梱包する際に揮発性の化学物質が出るのではないかと言っています。あるいは3市の運搬車が大量に東大和に入ることに對する抵抗、こういった問題でいま非常に難航しています。

小平はごみを処理していて、武蔵村山はし尿の処理をしています。現実に生活していれば必ずごみが出ます。ものを食すれば排泄をする。現実的に逃げないでいかに議論をするかです。小平市は焼却の施設を持っていて中島町に迷惑をかけていますが、広域的な施設として引き続きそこでやっていただきたいと考えています。平成33年度の建替えをしていくときにあの場所で引き続きお願いするとなると今のまま無条件で作らしてくださいと言うのは難しいです。できるだけごみを減らして資源化できるものはできるだけ資源化して、できるだけコンパクトにして、なおかつ周辺の人たちには地域還元として、お湯を提供するとか電気を発電して一部供給するとかをやろうと考えています。東大和市には資源物の中間施設をぜひ作ってほしいとお願いしているところです。

東大和市の尾崎市長は小平市の元職員ですね。

ごみ問題はきれいごとを言うことはできますが、現実的に対応するとなるときれいごとではすまないところがあります。粘り強くやっていくしかないと思っています。

パブリックコメントをもらったときに、10年前の数値目標が甘かったのではな

いかと言われてびっくりしました。この10年間不況だからごみは少なかった。今度は目標が達成できなくて怒られるのではないのでしょうか。景気が良くなるとごみは増えると思います。

市長 ごみ問題は我々自身の毎日の生活のことで、立派なことを言う前に自分の生活を見直して、ごみをちゃんと分別して出してほしいと思います。市役所で議論して立派な報告書を出せば解決する問題じゃなくて、それも大事ですが、役所が個人の生活の範囲に啓発をしていくことです。強制できませんから努力してお願いするしかありません。だからそういうものを徹底してやって、できるだけ焼却する量を減らしていくことが大事です。

委員 プラスチックの資源化について、プラスチックはビンとか金属と違って本質的にリサイクルに向かないというのが最近の知見です。車のシートカバーとか擬木とか用途が限られている。2012年にペットボトルの輸出が思うようにできなくてペットボトルの値段が下落しました。ペットボトルは燃やすにしろ、リサイクルするにしろ問題があるから、それをどうやって減らすかをもっと真剣に考えないといけません。容り法の改正も事業者の方にもっと負担してもらおうと進められています。3市資源化施設でペットボトルとプラスチックを資源化するのに20億円くらいかかえて建物を作るのは将来的にどうなのでしょう。ペットボトルは販売店が自主回収をしているので、もっと積極的にそういうものを利用するように市の方でも進めたらどうかと思います。資源化施設の建設が3市の方針なのでそういうことを言ってもだめだと言われましたが、ぜひ考え直してください。

市長 拡大生産者責任は理想論としてあるが、容り法でずっと議論しています。今は行政回収していて、これは市民の税負担でやっている。生産者が責任を負ってやるようになると回収部分は単価を商品に上乗せすることになるでしょうが、そうなったときに消費者はどう思うかです。

会長 小村大の議会でもプラスチックはもともと原油だからサーマルリサイクルで燃料として燃やせばいいという議論があります。最近までは塩ビ系のものを燃やすとダイオキシンが発生するから燃やすことは罷りならんという論調が主流でした。東京都は中央防波堤の外側に全部埋め立てていたが、学者が燃やすための理論を無理やり作ったのです。

委員 ごみの議論が、20年前は徹夜で真剣にやっていたんですが、今は人が集まりません。一部の人熱心だが議論できないのです。今は企画すらできません。人によって意識の幅に開きがあるのです。市民自身が20年前に比べると議論しなくなりました。ペットボトルの普及によって、自分でお茶を淹れられない若者もいます。そういうことをもうちょっと真剣に話し合ってほしい。

市長 子どもの教育について、環境教育はごみのリサイクルから入るのではなくて、自然に触れ合うとか、生態系を学ぶということが最も大事で、ものがどこからやってくるか根本的なことを理解する子どもが増えるといいと思います。自然と触れ合う機会がないからものを作る機会がないのです。自然と触れ合うことがごみ問題につながるし、平和問題につながる。なぜかと言うと日本はほとんど原材料を輸入に頼っていて、海外の環境を台無しにしています。そういうことまで考えられる子どもが育つとものを大事にするのではないのでしょうか。結果的にごみが減っていきます。

副会長 同感ですが、この中で教育問題まで広げていくと教育観の違う人もいますので難しい面があります。

副会長 ごみ問題は人間の生き方の問題だと思っています。審議会は興味深いと思って参

加しました。まず、家庭ごみの有料化ということを知りました。一番大きくわかったのはリデュースが一番大事でリサイクルが一番ではないということでした。3Rはどれも同じだと思っていました。どうして小平市は環境基準のISOを取得しないのでしょうか。家庭ごみを有料化する以上は自治体自身が身を切る姿勢でやっていることを示さないといけません。市はそういう方針がないと聞きました。

市長 有料化というごみは昔から有料でやっていました。いままでは税金で間接的にやっていたということです。直接払いになるとごみを出した量に応じて負担が変わるので排出した量が明確になります。なぜ有料化に反対するかという有料化の動議付けがあまりにも安易で、有料化すればごみが減るだろうではなくて、環境負荷を減らすとか生活習慣を見直すとかをしっかりとわかった上でやらないとごみは減りません。負担が重いからごみを減らすというのはありますが、どこかでリバウンドしてしまいます。市民に対する啓発活動やごみ減量化に対する意義を理解した上でやらないといけません。ただごみを減らすために有料化をやるのは問題があります。

役所と市民は一体で、信託を受けてやっています。市として一定の目に見える形の努力を示さないといけないのはよくわかります。市としては具体的な形として今エコダイラオフィス計画でCO2削減や電力の削減を明確な目標を掲げてやっています。知られていないとすれば広報不足だと思います。小平市は机ごとに照明のプルスイッチを使って照明を消します。5時になると暖房が一斉に切れて職員は防寒服を着て仕事をしています。

会長 そろそろお時間でございますので、市長との懇談はここまでとさせていただきます。

本日の予定もすべて終了しておりますので、会議を閉じたいと思いますが、終わりに当たって、市長から御挨拶をいただければと思います。

市長 第10期の廃棄物減量等推進審議会の皆さま方におかれましては、今後の当市の廃棄物行政にとって重要な計画の策定に当たりまして、熱心にご審議いただきまして、誠にありがとうございました。

結びといたしまして、今後の皆さま方におかれましては、ますますのご健勝を祈念いたしますとともに、当市の廃棄物の減量及び処理事業を始め、市政全般にわたりまして、引き続きご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げまして、閉会に当たりましての挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

会長 それでは、本日の審議会はこれで閉会といたします。お疲れ様でした。